

# 通信制高校の生徒が稲作 食の大切さ学ぶサポート校



田植えをする生徒たち

通信制の高校に通う生徒のためのサポート校「マイン高等学院」大分キャンパス（未広町2）は毎年、市内の田んぼを借り、生徒たちが稲作を体験している。

キャンパスは2005年に開校。中学卒業後や、高校を中退・転校後に通信制の「私立屋久島おおぞら高」（鹿児島県屋久島町）に入った生徒が3年間で卒業できるよう指導している。

合い、食の大切さを学んでもらおうと、4年前に始めた。生徒たちは農家の指導を受けながら春に田植え、秋には収穫を体験し、米は調理実習などで使う。

6月15日に行われた田植えには、約20人が参加し、雨の中、苗を丁寧に植えた。1年の児玉亜里花さん（16）は「ほかの生徒や先生と仲良くなりたいと思い、参加した。収穫するのが楽しみ」と話していた。

体験は生徒らに自然と触れ